



## ◇研究入門【大学院生研究紹介】

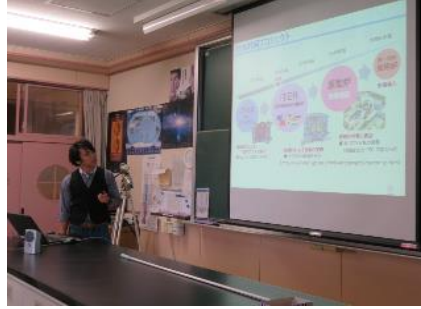
5月29日(水) 対象:2年次 SSH コース 場所:地学実験室



弘前大学の大学院で研究している内容を紹介していただきました。弘前大学理工学研究科知能機械工学コースから「レーザーを用いたバイオチップ作製に関する研究」、新エネルギー創造工学コースから「新エネルギーとしての核融合炉発電」、農学生命科学研究科生物資源学コースから「熊本県久木野地区の水田において見出された半矮性イネの遺伝解析～育種利用にむけて」というテーマでそれぞれ講演していただきました。



本校 OB 石戸谷 悠治さん



本校 OB 竹村 理央さん



本校 OB 日景 雄大さん

### 【生徒感想抜粋】

- 自然科学部で微生物を観察するときシャーレで観察したらピントが合わず大変だった。バイオチップを用いれば簡単に観察したり、より正確に検査ができることがわかった。
- 核融合は+電子どうしが結合しようとするお互いにはじき合ってしまう。だから温度上昇で動きを速くしたりする。
- 半矮性イネの話聞き、熊本県久木野地区の水田に合うイネを作ることが自分たちの課題研究の延長線のようなだった。
- 興味があることを追求して調べる、積極的に研究などを行うことが大切。大学でも高校で学んだことが重要になってくるので、高校の勉強をきちんと理解して大学でも生かせるようにしたい。



# ◇ International Science Exchange

6月5日(水) 対象:3年次 SSHコース 場所:地学室・物理室

6月12日(水) 対象:2~3年次 SSHコース 場所:第1体育館

2週に渡って英語による課題研究発表会が行われました。5日は弘前大学留学生に、12日はALTの先生方・県教委の先生方を助言者に迎え、県内の中学高校教員、保護者の方々を対象に発表会を行いました。効果的な発表方法を模索しながら、英語による質疑応答にも真摯に応えようと努力していました。2年生も先輩方の発表をメモをとりながら、真剣に聴いていました。



## 【参観者感想抜粋】

- 生徒たちが英語で発表していることに感動した。緊張したと思うが、1つの成長が見られた。
- 普通校では体験できないことを最後までとても頑張っていた。事前に準備できることだけでなく、ALTの先生方の英語による質問に英語で対応していたことに驚いた。
- やりとりで自信のない生徒が見受けられたが、この経験が表現力をもっと磨いたり、英語を聴く力を身につけるためのスタートラインであることを生徒に伝えて欲しい。
- 発表会の雰囲気が良かった。聴く側の生徒たちも一生懸命聴いていた。ALTなど英語を話せる人が積極的に質問することで発表会が盛り上がった。生徒や参加した外部の人も英語で質問したくなるような雰囲気だった。
- 生徒の英語力の高さに、よく練習されていると感じた。質問にうまく答えられずに苦しむ場面もあったが、なんとか理解しよう伝えようとする姿勢が伝わった。

## ◇ 参加者募集！ 日本数学オリンピック

数学を通して、世界と語り合おう

切:10月31日(木)

世界各国の高校程度の知識を前提に、整数・幾何・組合せ・式変形等が出題され、主に「考える力」が試される。このコンテストの成績上位6名が、日本代表として国際数学オリンピックに出場できる。

参加費:4,000円